

Press Release

Nov 2, 2021 | ID: 21-V051

ボルボ・カーズ、電気自動車の気候変動対策をより効果的 にするためクリーンエネルギーへの投資拡大を要請

本プレスリリースは、11月2日スウェーデン本社発の翻訳版です

ボルボ・カーズは本日、世界のリーダーやエネルギー供給者に対し、ボルボ・カーズやその他の電気自動車が気候変動に関して真の可能性を発揮するために、クリーンエネルギーへの投資を大幅に増やすよう呼びかけました。

この呼びかけは、ボルボ・カーズの最新の電気自動車(BEV)のライフサイクル全体の二酸化炭素排出量に関する報告書が新たに発表されたことに合わせて行われたものです。この報告書によると、クリーンなエネルギー源を使って自動車を製造し、充電した場合、二酸化炭素を大幅に削減できる可能性があります。

また、グラスゴーで開催されている国連の COP26 気候サミットでは、政府首脳や産業界のトップが気候変動対策のための二酸化炭素排出量削減計画の見直しについて議論し、発表しています。

ボルボ・カーズは、2030年までに完全な電気自動車メーカーになることを目指しており、業界で最も野心的な電動化計画の一つとして、今後数年間で電気自動車の新シリーズを展開する予定です。これは、2040年までにクライメート・ニュートラル企業になるという高い目標の一環であり、事業全体で一貫して二酸化炭素の排出量を削減することを目指しています。

しかし、ボルボの電気自動車が二酸化炭素削減の可能性を最大限に発揮するためには、政府やエネルギー部門の協力が必要です。ボルボ C40 Recharge の新しいライフサイクルアセスメント(LCA)の報告書が示すように、ボルボの電気自動車の製造と充電にクリーンなエネルギーが利用できるかどうかで、CO₂ 排出量に大きな違いが生じます。

ドライバーが C40 Recharge を風力発電などのクリーンエネルギーで充電した場合、車のライフサイクルにおける CO₂ 排出量は、従来の内燃機関(ICE)エンジンを搭載したボルボ XC40 の半以下になります。化石燃料で発電した電気で充電すると、その差は遥かに小さなものになります。

ボルボ・カーズの CEO であるホーカン・サムエルソンは、「私たちは、完全な電気自動車メーカーになること、そして業界のリーダーになることを意識し戦略的に決定しましたが、私たちだけでクライメート・ニュートラルへの移行を実現することはできません。世界中の政府やエネルギー企業に、クリーンエネルギーの供給能力や関連する充電インフラへの投資を強化してもらい、電気自動車がよりクリーンなモビリティを実現できるようにしなければなりません」と述べています。

ボルボ・カーズの見解は、国際エネルギー機関(IEA)が発表した「2021年世界エネルギー投資報告書」*にも反映されており、クリーンエネルギーへの投資は「緩やかな増加傾向」にあるものの、計画されている投資額は「気候変動による深刻な影響を回避するために必要な額をはるかに下回っている」と指摘しています。

IEA の報告書によると、世界のクリーンエネルギーへの投資は、「気温上昇を 2°C 以下に抑えるためには 2020 年代に 2 倍、1.5°C の安定化に向けて可能性を残しておくためには 3 倍以上の投資が必要」としています。

ボルボ・カーズは、2019 年に発売した初の電気自動車である XC40 Recharge を皮切りに、完全な電気自動車モデルごとに LCA 報告書を発行しています。これらの報告書は、様々なシナリオの下での車の CO₂ インパクトに関して完全な透明性を提供し、お客様に車の全体的な気候フットプリントに関する貴重な情報を

提供します。

C40 Recharge の LCA 報告書によると、クリーンな電源で発電された電気で充電した場合、そのライフサイクル CO₂ フットプリントは内燃機関を搭載した XC40 の 59トンに対して約 27トンの CO₂ となります。

しかし、世界の平均的なエネルギーミックス(約 60%が化石燃料)を使用して C40 Recharge を充電した場合、車のライフサイクル CO₂ は 50トンにもなり、従来のエンジン車に比べて環境面での利益は大幅に減少します。

電気自動車の生産に伴うカーボンフットプリントを削減するためには、クリーンエネルギーは重要な要素となります。LCA によると、C40 Recharge の生産時の排出量は、ガソリンエンジンを搭載した XC40 と比べて 70%も高いことが分かりました。これは主に、バッテリーとスチールの生産における二酸化炭素排出量と、自動車に占めるアルミニウムの割合が増加したことによるものです。

ボルボ・カーズは、これらの排出量に対処するために積極的な取り組みを行っています。例えば、SSAB とのコラボレーションにより化石燃料を使用しないスチールを開発したり、バッテリー・サプライヤーとのコラボレーションにより 100%再生可能エネルギーを使用してバッテリーを生産しようと計画しています。

ボルボ・カーズは、2018 年から 2025 年の間に、平均的な自動車 1 台あたりのライフサイクルにおけるカーボンフットプリントを 40%削減することを目指しています。これには、2025 年までにサプライチェーンにおけるカーボン排出量を 25%削減することも含まれます。

ボルボ・カーズは、自社のオペレーションにおいても、2025 年までにクライメート・ニュートラルな製造を目指しています。現在、ボルボ・カーズのヨーロッパのすべての工場は、すでに 100%クライメート・ニュートラルな電力で稼働しており、スウェーデンのトースランダ工場とショブデ工場は、完全にクライメート・ニュートラルな工場となっています。また、中国の成都工場と陸橋工場では、クライメート・ニュートラルな電力を使用しています。

編集者注

- IEA 2021 年世界エネルギー投資報告書」は下記からご覧いただけます：

<https://www.iea.org/reports/world-energy-investment-2021/executive-summary>

- C40 Recharge Life Cycle Assessment 報告書(英語)は[プレスサイト](#)にログインしてダウンロードいただけます

ボルボ・カー・グループについて

ボルボ・カーズは 1927 年に創業された高級自動車ブランドの一つであり、2020 年には約 100 カ国で 661,713 台を販売しています。ボルボ・カーズは、2010 年から浙江吉利控股有限公司 (Zhejiang Geely Holding) の傘下に入っています。

2020 年 12 月現在、ボルボ・カーズの正社員は約 40,000 人(前年 41,500 人)です。ボルボ・カーズの本社、商品開発、マーケティング、管理機能は、主にスウェーデンのイエーテボリにあり、アジア太平洋地域の本社は中国・上海に、南北アメリカ地域の本社はニュージャージー州マハワにあります。主な生産拠点は、イエーテボリ(スウェーデン)、アントワープ(ベルギー)、サウスカロライナ(米国)、成都および大慶(中国)にあります。

ボルボ・カーズは、企業目標「Freedom to Move(モビリティの自由)」のもと、個々のニーズを満たせる持続可能で安全なモビリティをお客様に提供することを目指しています。この目標のもと、2020 年代の半ばまでに、世界販売台数の 50%を完全な電気自動車にすること、販売の 50%をオンラインにすること、ソフトウェアの 50%を内製化することを目指しています。また、ボルボ・カーズは、2040 年までにクライメート・ニュートラルを実現することを目標に、CO₂ 排出量の継続的な削減に取り組んでいます。

報道関係お問合せ先

ボルボ・カー・ジャパン 広報
vcjpr@volvocars.com

Related Images



[More Images >](#)

Copyright © 2021 Volvo Car Japan Limited